

目次

最新情報.....	1
ドライバーのインストール時の注意点.....	1
ドライバーの選択について.....	1
デジタル入力を使用する場合 (US-366).....	2
新機能.....	2
Mac OS X ドライバー.....	2
メンテナンス項目.....	3
ファームウェア.....	3
Mac OS X ドライバー.....	3
Windows ドライバー.....	3
既知の項目.....	4
Windows ドライバー.....	4
Mac OS X ドライバー.....	4
ドライバーバージョンおよびファームウェアバージョンの確認.....	5
ドライバーおよびファームウェアのアップデート手順.....	6
Windows.....	6
Mac OS X.....	7

最新情報

本機の最新版のドライバー／ファームウェアは、下記になります。

Windows

ドライバー	: V1.03 [更新]	Windows 8 (8.1を含む) 64ビット版／ 32ビット版
		Windows 7 64ビット版SP1以上／ 32ビット版SP1以上
ファームウェア	V1.02 [更新無し]	Windows XP 64ビット版SP2以上／ 32ビット版SP3以上
	: V1.03 [更新]	

Mac OS X

ドライバー	: V3.01 [更新無し]	OS X Yosemite (10.10)
		OS X Mavericks (10.9)
	V1.02 [更新無し]	OS X Mountain Lion (10.8)
		OS X Lion(10.7)
ファームウェア		Mac OS X Snow Leopard (10.6)
	: V1.03 [更新]	

本機のドライバー／ファームウェアは、常に最新版をお使いいただきますようお願いいたします。最新のドライバー／ファームウェアに関しては、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) にてご確認ください。

TASCAM US-322/US-366 Release Notes

ドライバーのインストール時の注意点

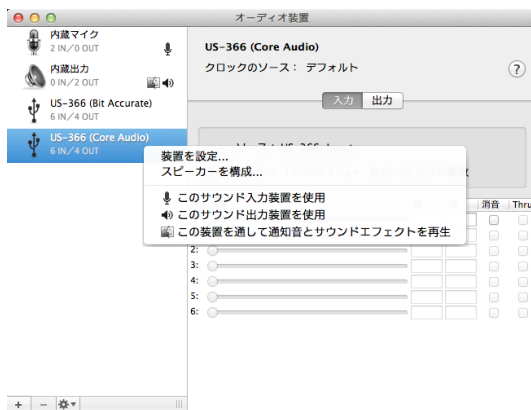
新規ドライバーをインストールする場合は、必ず古いドライバーを削除してから新しいドライバーをインストールしてください。

Mac OS X 用ドライバーの選択について

OS X Yosemite (10.10) およびOS X Mavericks (10.9) 用のドライバーは、Bit AccurateタイプとCore Audioタイプの2種類があります。機種名の後ろに《(Bit Accurate)》または《(Core Audio)》と表示されています。

Audio MIDI 設定

OS X Yosemite または OS X Mavericks の《Audio MIDI 設定》の《オーディオ機器画面》でBit Accurateタイプのドライバーでは《このサウンド入力装置を使用》、《このサウンド出力装置を使用》および《この装置を通して通知音とサウンドエフェクトを再生》を設定することはできません。必ずCore Audioタイプを選択してください。



[Core Audioタイプを選択して右クリックした場合]

DAW（Cubaseなど）をお使いの場合

CubaseなどDAWでご使用になる場合は、Bit Accurateタイプのドライバーをご利用ください。



[例：Cubase のデバイス設定画面でASIOドライバーを選択する場合]

Bit Accurateタイプの方が安定した録音・再生が行えますが、App Storeからダウンロードしたアプリなど一部のアプリで使用できません。この場合は、デバイス設定でCore Audioタイプのドライバーを選択してください。

デジタル入力を使用する場合（US-366）

デジタル入力（DIGITAL IN）を使用する場合、《US-xxxx Control Panel》の《Sample Clock》（または《Sample Clock Source》）を《automatic》に設定にした状態でデジタル入力（DIGITAL IN）にデジタルケーブルを接続し、接続相手をクロックマスターにしてご使用ください。クロックマスターにならない機器との接続はできません。

また、デジタル入力（DIGITAL IN）とデジタル出力（DIGITAL OUT）を同時に使用するとき、《Control Panel》の《Sample Clock》を《internal》に設定するとDIGITAL INを受信することができないため、DIGITAL OUTの音がそのままDIGITAL INに戻されてループノイズが発生する原因となります。デジタル入力を使わない場合は、デジタル入力をアサインしないでください。

コントロールパネルについては、取扱説明書をご覧ください。

新機能

Mac OS X ドライバー

V3.01の追加

- OS X Yosemite (10.10) に対応しました。

注意

V3.01ドライバーは、OS X Mavericks (10.9) 以上のOS専用のドライバーです。
OS X Mountain Lion (10.8) 以前のOSをお使いの方は、V1.02ドライバーをお使いください。

メンテナンス項目

ファームウェア

V1.03の修正

- **US-366**において、《INTERFACE》タブ画面の《Sample Clock Source》項目を《Automatic》に設定した状態で、外部からのデジタル信号が入力されている状態から、いったんデジタル信号を外しFSを変更して再接続した時に**US-366**がハングアップすることがありましたが、これを修正しました。

V1.02の修正

- **US-366**において、モードが「STEREO MIX」のときに外部から176.4 / 192kHzのデジタル信号が入力されている状態でパソコンを起動する、またはUSBケーブルを接続した場合にcomputer 1/2の信号が出力されないことがありましたが、出力されるように修正しました。
- REVERBをオンにした際にノイズが発生することがありましたが、これを修正しました。

Mac OS X ドライバー

V1.02の修正

- **US-322/US-366**の起動後、ミキサーパネルを開くまでは、**MON MIX**つまみの状態に関わらず本機の外部入力音は本機の端子から出力されず、パソコンからの出力音のみしか出力されませんでした。が、**MON MIX**つまみの状態どおりに出力されるように修正しました（モードが「STEREO MIX」のときは、仕様により**MON MIX**つまみは動作しません）。
- **US-322/US-366**において、ダイナミクスエフェクトのアサインが、奇数チャンネル（Digital 1、Analog 1等）でオフ、偶数チャンネル（Digital 2、Analog 2等）でオンの状態でステレオリンクをオンにすると、表示は偶数・奇数チャンネルともにアサインはオフになりますが、ダイナミクスエフェクトが偶数チャンネルで有効になっていましたが、どちらも無効になるように修正しました。
- **US-322/US-366**において、「STEREO MIX」モードで動作している場合、ダイナミクスエフェクトがどのチャンネルにもアサインされておらず、且つダイナミクスエフェクトがオンになっている状態で本機を起動させると、ダイナミクスエフェクトがComputer 1に対して有効になっていましたが、これを修正しました。
- **US-366**において、デジタル入力信号のビット長が16ビットの場合、ミキサー画面のメーターのオーバーロードインジケーターは最大レベルで点灯していましたが、点灯するように修正しました。

V1.01の修正

- **US-322/US-366**の《MIXER》タブ画面において、入力チャンネルのセンドポイント（エフェクトセンドバスに送る信号の場所の設定）が《PRE》で、且つ《MUTE》がオンの場合、そのチャンネルのセンドレベルボリュームを操作すると、センドバスへ送る信号をミュートしましたが、ミュートしないように変更しました。
- **US-322/US-366**において、Computer 1-6にレベルの変化が激しい音が入力されている場合、メーターの表示レベルが実際より小さく表示されましたが、実際のレベルとなるように変更しました。
- **US-322/US-366**において、サンプルレートが88.2kHzまたは96kHzの場合、《EFFECT》タブ画面上でダイナミクスエフェクトパラメーターを変更していると、その操作中にオーディオにノイズが混入されていましたが、これをノイズが発生しないように変更しました。
- **US-322/US-366**において、ステレオリンクがオンの状態（ステレオリンクボタンが黄色の状態）で本機を起動させると、ステレオリンクボタンの色がグレーになっていましたが、黄色となるように変更しました。
- **US-366**において、Digital 1/2に音が入力されていて、且つDigital 1/2のMUTEがオンの場合、ミキサーパネル閉じている状態から開く操作を行うと、音によってはデジタル入力音に小さな異音が入ることがありましたが、これを異音が入らないように変更しました。

Windows ドライバー

V1.03の修正

- Windows 8.1のUpdate (KB 2919355) をインストールした際に、US-322/366を接続した状態で、Windowsの設定「共有モードで使用されるサンプルレートとビット深さ」にて24ビットが選択されている場合に、Windowsシステム音を再生したときにパソコンが再起動してしまう不具合を修正しました。

V1.02の修正

- **US-322/US-366**において、ダイナミクスエフェクトのアサインが、奇数チャンネル (Digital 1、Analog 1等) でオフ、偶数チャンネル (Digital 2、Analog 2等) でオンの状態でステレオリンクをオンにすると、表示は偶数・奇数チャンネルともにアサインはオフになりますが、ダイナミクスエフェクトが偶数チャンネルで有効になっていましたが、どちらも無効になるように修正しました。
- 本機を接続した状態でパソコンを終了 (再起動) した場合にフェーダー設定等が保存されない不具合を修正しました (SOLOおよびMUTE など一部の状態は保存されません)。

V1.01の修正

- **US-322/366**を起動後、本体の**MIXER PANEL**ボタンを押して一度ミキサーパネルを開くまでは、Windowsのスタートメニューからパネルを開くことができませんでしたが、**MIXER PANEL**ボタン押す前でもスタートメニューから開くことができるように変更しました。
- **US-366**において、《INTERFACE》タブ画面の《Sample Clock Source》項目を《Automatic》に設定した状態で一度外部のデジタル機器を接続すると、その後《Sample Clock Source》項目を《Internal》へ変更してもDAWからサンプルレートを切り換えることができませんでした。これを、《Internal》へ変更した場合にDAWでサンプルレートを変更できるように変更しました。

既知の項目

Windows ドライバー

V1.01の項目

- ダイナミクスエフェクトのアサインが、奇数チャンネル（Digital 1、Analog 1等）でオフ、偶数チャンネル（Digital 2、Analog 2等）でオンの状態でステレオリンクをオンにすると、表示は偶数・奇数チャンネルともにアサインはオフになりますが、ダイナミクスエフェクトが偶数チャンネルで有効になります。
ステレオリンク後、ダイナミクスエフェクトのアサインを一度オンにし、その後オフにすることで正常な状態となります。
- **US-366**では、「**MULTITRACK**」モード／「**STEREO MIX**」モードの設定や、**LINE I/O 3 / 4**端子の**LINE I/O**スイッチの設定によって、パソコンとのオーディオ入出力チャンネル数が変化しますが、DAWからは常に6入力および6出力のポートが見えます。設定により使用できないポートはDAW上で設定しないでご使用ください。設定した場合、オーディオ信号が無いため無音となります。
下記に、各設定の未使用ポートをグレーで示した表を掲載します。

Mixer mode	LINE I/O switch	Input (US-366→computer)			Output (computer→US-366)		
		ch 1/2 (Analog 1/2)	ch 3/4 (Digital 1/2)	ch 5/6 (Analog 3/4)	ch 1/2 (Computer 1/2)	ch 3/4 (Computer 3/4)	ch 5/6 (Computer 5/6)
MULTITRACK	INPUT						
	OUTPUT						
STEREO MIX	INPUT						
	OUTPUT						

- **US-366**において、モードが「**STEREO MIX**」のときに外部から176.4/192kHzのデジタル信号が入力されている状態でパソコンを起動する、またはUSBケーブルを接続した場合に**computer 1/2**の信号が出力されないことがあります。
《**INTERFACE**》タブ画面の《**Sample Clock Source**》項目を《**automatic**》から《**internal**》に一度変更した後、再度《**automatic**》にすることで正常な状態となります。

Mac OS X ドライバー

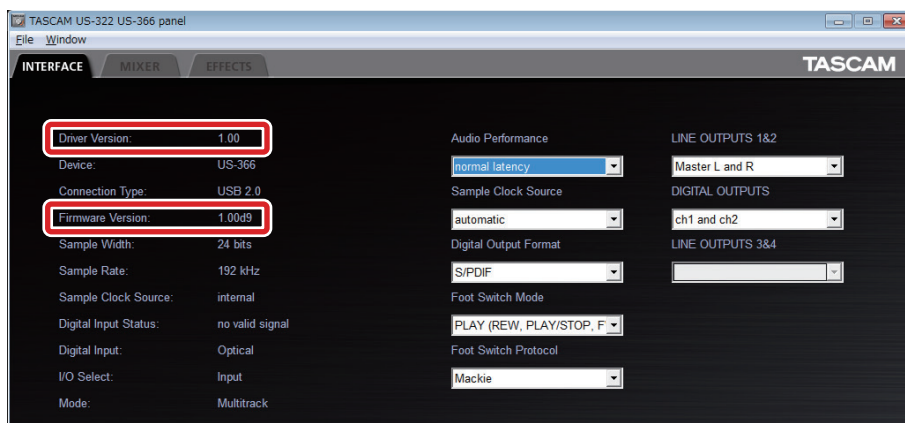
V1.00の項目

- **US-322/US-366**の起動後、ミキサーパネルを開くまでは、**MON MIX**つまみの状態に関わらず本機の外部入力音は本機の端子から出力されず、パソコンからの出力音のみが出力されます。ミキサーパネルを閉じた状態で外部入力音を聴く、あるいはパソコンからの出力音を本機から出力させたくない場合は、起動後に一度ミキサーパネルを開いてください。一度開くと、その後はミキサーパネルを閉じてても問題ありません。
- ダイナミクスエフェクトのアサインが、奇数チャンネル（Digital 1、Analog 1等）でオフ、偶数チャンネル（**Digital 2, Analog 2**等）でオンの状態でステレオリンクをオンにすると、表示は偶数・奇数チャンネルともにアサインはオフになりますが、ダイナミクスエフェクトが偶数チャンネルで有効になります。
ステレオリンク後、ダイナミクスアサインを一度オンにし、その後オフにすることで正常な状態となります。
- 「**STEREO MIX**」モードで動作している場合、ダイナミクスエフェクトがどのチャンネルにもアサインされておらず、且つダイナミクスエフェクトがオンになっている状態で本機を起動させると、ダイナミクスエフェクトが**Computer 1**に対して有効となります。
起動後、Computer 1のダイナミクスアサインを一度オンにし、その後オフにすることで正常な状態となります。
- **US-366**において、デジタル入力信号のビット長が16ビットの場合、ミキサー画面のメーターのオーバーロードインジケータは最大レベルで点灯しません。
- **US-366**において、モードが「**STEREO MIX**」のときに外部から176.4/192kHzのデジタル信号が入力されている状態でパソコンを起動する、またはUSBケーブルを接続した場合に**computer 1/2**の信号が出力されないことがあります。
《**INTERFACE**》タブ画面の《**Sample Clock Source**》項目を《**Automatic**》から《**Internal**》に一度変更した後、再度《**Automatic**》にすることで正常な状態となります。

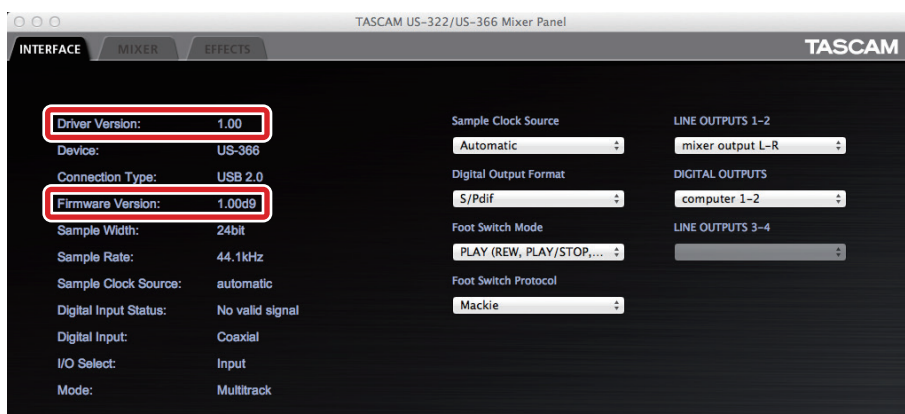
ドライバーバージョンおよびファームウェアバージョンの確認

ドライバーまたはファームウェアのアップデート作業前に、現在お使いのUS-322またはUS-366のドライバーおよびファームウェアのバージョンを確認します。

1. 本体のMIXER PANELボタンを押してミキサーパネルを起動します。
2. 《INTERFACE》タブをクリックして《INTERFACE》タブ画面を表示します。
3. 《INTERFACE》タブ画面の《Driver Version》項目でドライバーのバージョンを、《Firmware Version》項目でファームウェアのバージョンを確認します。



[Windows用 US-366ミキサーパネル]



[Mac OS X用 US-366ミキサーパネル]

ドライバーアップデート手順

下記の記載順の通り、最新のドライバーをインストールし、それからファームウェアをアップデートしてください。

Windows

ドライバーのアップデート手順

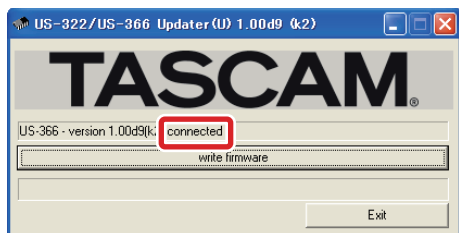
インストールを開始する前に、**US-322**または**US-366**からUSBケーブルを抜いてください。また、ドライバーがインストールされている場合には、ドライバーをアンインストールしてください。アンインストールの方法は、取扱説明書の「ドライバーのアンインストール」を参照してください。

1. TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) から、ご使用のOSに適した最新のドライバーをダウンロードし、ご使用のパソコンのハードディスクへ保存してください。
2. 保存したドライバーのzipファイルをハードディスク上へ解凍してください。
3. 《**setup.cmd**》をダブルクリックして、インストールを開始します。
その後は取扱説明書に記載されているインストール手順と同じとなります。

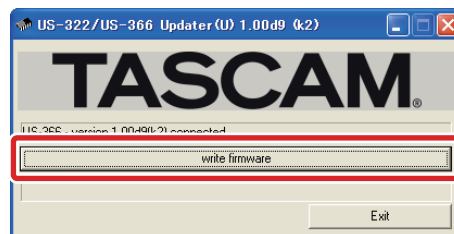
ファームウェアのアップデート手順

ドライバーのインストールが完了し、パソコンの再起動が完了したら、次にファームウェアのアップデートを行います。

1. TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) から、“**Ver. x.xxファームウェアアップデーター (Windows用)**” をダウンロードし、ハードディスク上へ保存してください。
2. 保存したzipファイルを解凍するとexeファイルが作成されますので、exeファイルをダブルクリックし、ファームウェアアップデーターを起動します。
3. 本機とパソコンをUSB接続し、アップデーターの画面表示が《**connected**》になっていることを確認します。



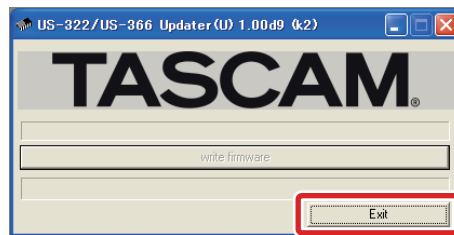
4. 《**write firmware**》 ボタンをクリックすると、アップデートが始まります。



注意

アップデート中はUSBケーブルを抜く、またはパソコンの電源を切らないでください。ファームウェアが壊れて、アップデートも通常の動作もできなくなります。

5. アップデートプロセスが終了すると、下記の画面が表示されます。



6. 《**Exit**》 ボタンをクリックすると、アップデートが完了します。

TASCAM US-322/US-366 Release Notes

Mac OS X

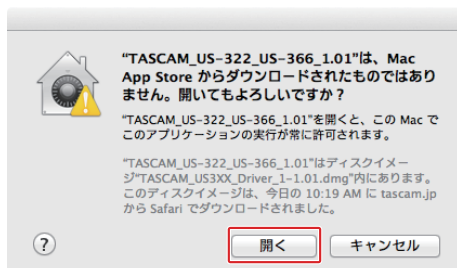
Gatekeeperについて

Gatekeeperの設定により、インストール中に警告画面が出る場合があります。

- Gatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》にしている場合
《“(ファイル名)” は、Mac App Storeからダウンロードされたものでないため開けません。》というセキュリティの警告が出ることがあります。



その場合には《OK》を押して警告画面を閉じた後、Controlキーを押しながらファイルをクリック（右クリック）し、メニューから《開く》ボタンをクリックしてください。《“(ファイル名)” は、Mac App Storeからダウンロードされたものではありません。開いてもよろしいですか。》という警告が出ますので、《開く》ボタンをクリックしてください。



このとき、次のGatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》以外にしている場合と同じ警告が出ることがあります。
《“(ファイル名)” は、Mac App Storeからダウンロードされたものでないため開けません。》というメッセージが再度出ないことがあります。



このときは、ファイルのあるフォルダから、デスクトップなど他のフォルダにファイルをコピーしてから実行するか、Gatekeeperの設定を《Mac App Storeと確認済みの開発元からのアプリケーションを許可》に変更してから再度実行してください

- Gatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》以外にしている場合
《“(ファイル名)” は、アプリケーションで、インターネットからダウンロードされました。開いてもよろしいですか》というセキュリティの警告が出ることがありますが、その場合には《開く》ボタンをクリックしてください。



- Gatekeeperの設定を変えるには

Gatekeeperの設定は、システム環境設定の《セキュリティとプライバシー》から《一般》タブの《ダウンロードしたアプリケーションの実行許可：》項目で変更できます。変更するには左下のカギアイコンをクリックし、パスワードを入力してロックを解除する必要があります。



ボタンもしくはcommand+Qなどでシステム環境設定を終了する、または《全てを表示》をクリックしてこの画面から移動すると、ロックされます。

注意

Gatekeeperの設定を変えることで、セキュリティにリスクが生じる場合があります。
Gatekeeperの設定を変更してセキュリティを下げた（下にある項目に変更した）ときは、本ドライバーやファームウェアアップデートの終了後（ドライバーインストール直後にファームウェアアップデートを行う場合はファームウェアアップデート後）に設定を元に戻してください。

TASCAM US-322/US-366 Release Notes

ドライバーのアップデート手順

インストールを開始する前に、**US-322**または**US-366**からUSBケーブルを抜いてください。また、ドライバーがインストールされている場合には、ドライバーをアンインストールしてください。アンインストールの方法は、取扱説明書の「ドライバーのアンインストール」を参照してください。

1. TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) から、ご使用のOSに適した最新のドライバーをダウンロードしてください。
2. ダウンロードしたドライバーのディスクイメージファイル (《dmg》ファイル) をダブルクリックし、開いたフォルダ内の《TASCAM_US-322_US-366_x.xx》ファイルをダブルクリックします。



注意

ご使用の環境により、ダウンロードしたzipファイルが解凍されていない場合があります。その場合は、zipファイルを解凍してからアップデーターをダブルクリックしてください。

3. その後は、画面の指示に従ってインストールを進めます。



パソコンを再起動すると、ドライバーのインストールは完了です。

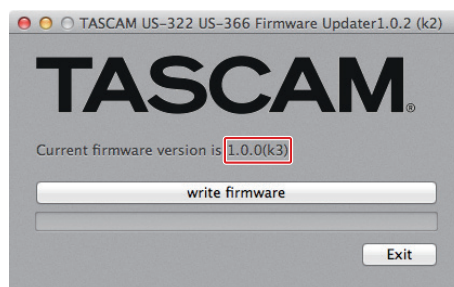
ファームウェアのアップデート手順

ドライバーのインストールが完了し、パソコンの再起動が完了したら、次にファームウェアのアップデートを行います。

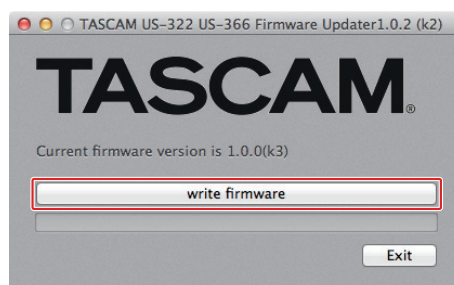
1. TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) から、《Ver. x.xxファームウェアアップデーター (Mac OS X用)》をダウンロードしてください。
2. ダウンロード・ウィンドウなどで、ダウンロードしたアップデーターをダブルクリックし、ファームウェアアップデーターを起動します。

注意

- このとき、《“FWUpdater...” は、アプリケーションで、インターネットからダウンロードされました。開いてもよろしいですか》というセキュリティの警告が出ることがありますが、その場合には《開く》ボタンをクリックしてください。また、この警告が表示されて、アップデーターがデスクトップから見えなくなった場合には、ドックにあるアップデーターのアイコンをクリックしてください。
- ご使用の環境により、ダウンロードしたzipファイルが解凍されていない場合があります。その場合はzipファイルを解凍してからアップデーターをダブルクリックしてください。
- 3. 本機とパソコンをUSB接続し、現在のファームウェアバージョンが表示されていることを確認します。



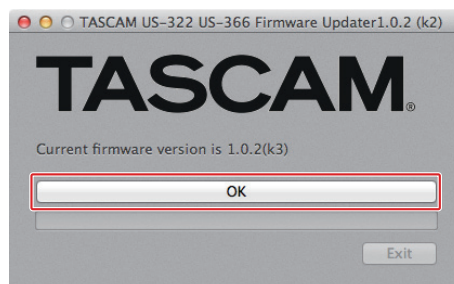
4. 《write firmware》ボタンをクリックすると、アップデートが始まります。



注意

アップデート中は、USBケーブルを抜かないでください。

5. アップデートプロセスが終了すると、下記の画面が表示されますので、《OK》ボタンをクリックしてください。



注意

《OK》と表示されない場合はアップデートが正常に行われていません。《write firmware》ボタンをクリックして再度アップデートを実行してください。

6. 《Exit》 ボタンをクリックするとアップデートが完了します。

